

1 津市コミュニティバス

(1) 概要

市内 8 地域において、主に民間路線バスの通っていない地域等で、地域住民の移動手段の確保を目的として津市が運行している。

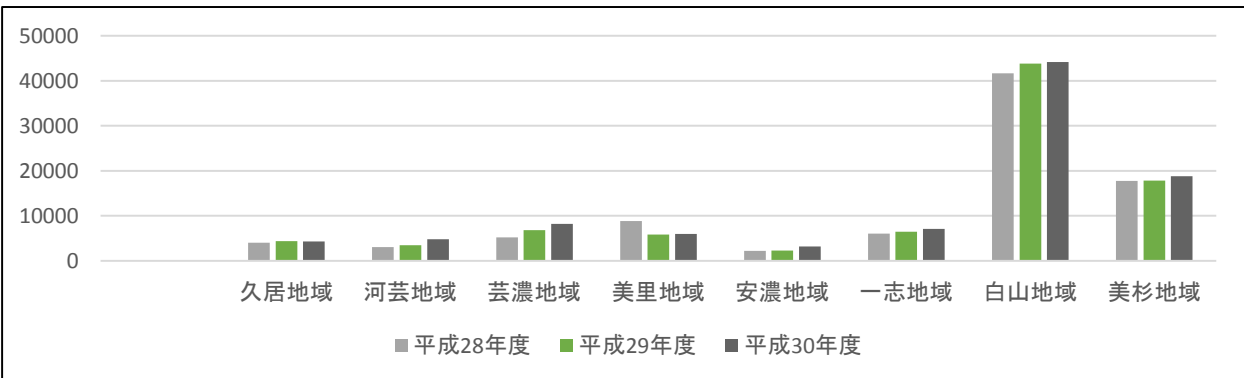
買い物や通院での利用が多いが、白山地域では、小中学生や高校生の通学手段としても利用されている。

(2) 利用状況

利用者の減少傾向が続いてきたが、平成 29 年 9 月 25 日に津市高齢者外出支援事業が開始されたことにより、利用者数は増加に転じた。（美里地域においては、平成 29 年 4 月にスクールバスが導入されたことによる減少傾向が見られる）

○ 津市コミュニティバス利用者数（単位：人）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	比較 (H30/H29)	比較 (H30/H28)
久居地域	4,007	4,394	4,335	98.7%	108.2%
河芸地域	3,021	3,465	4,819	139.1%	159.5%
芸濃地域	5,238	6,816	8,175	119.9%	156.1%
美里地域	8,833	5,847	5,967	102.1%	67.6%
安濃地域	2,199	2,317	3,162	136.5%	143.8%
一志地域	6,043	6,474	7,079	109.3%	117.1%
白山地域	41,655	43,823	44,133	100.7%	105.9%
美杉地域	17,742	17,833	18,796	105.4%	105.9%
合計	88,738	90,969	96,466	106.0%	108.7%



※ 美里地域、白山地域、美杉地域（川上ルート、丹生俣ルート）は、4 週間（6 月、8 月、11 月、2 月の各 1 週間）の乗降調査から算出した推計値

※ ルート別の利用者数については、【別添資料①】を参照

### (3) 事業費の状況

運行経費は年々増加しており、2年間で4,510,113円(約2.8%)増加している。運行経費増加の主な原因は、運転士不足に伴う委託料の増加である。

収入には、運賃や定期券・回数券の販売等の使用料と国からの補助金があり、使用料は津市高齢者外出支援事業の開始により大きく減少した。また、補助金も減少傾向が続いており、収支率は悪化している。

#### ○ 平成28年度津市コミュニティバス事業費(単位:円)

	運行経費 (A)	使用料収入 (B)	補助金収入 (C)	純支出 (A-B-C)	収支率 (B/A)
久居地域	5,777,763	687,200	811,000	4,279,563	11.9%
河芸地域	6,623,766	485,000	1,512,000	4,626,766	7.3%
芸濃地域	10,313,833	931,100	2,416,000	6,966,733	9.0%
美里地域	25,434,000	1,189,900	7,482,500	16,761,600	4.7%
安濃地域	5,260,795	407,800	1,008,000	3,844,995	7.8%
一志地域	13,244,840	983,500	2,906,000	9,355,340	7.4%
白山地域	39,528,000	5,046,900	0	34,481,100	12.8%
美杉地域	50,408,321	2,927,200	15,639,500	31,841,621	5.8%
合計	156,591,318	12,658,600	31,775,000	112,157,718	8.1%

※ 車両購入に係る経費及び収入は除いている

#### ○ 平成29年度津市コミュニティバス事業費(単位:円)

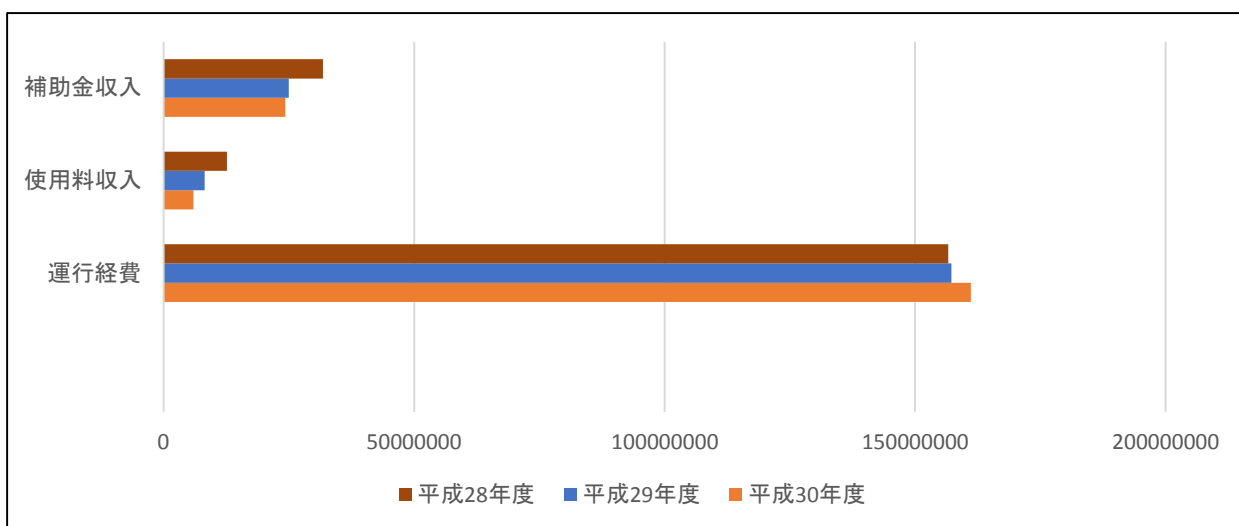
	運行経費 (A)	使用料収入 (B)	補助金収入 (C)	純支出 (A-B-C)	収支率 (B/A)
久居地域	6,055,280	530,400	800,000	4,724,880	8.8%
河芸地域	6,395,365	248,300	1,490,000	4,657,065	3.9%
芸濃地域	10,791,055	420,900	2,776,000	7,594,155	3.9%
美里地域	25,326,000	578,400	5,377,000	19,370,600	2.3%
安濃地域	6,015,641	268,050	604,000	5,143,591	4.5%
一志地域	13,220,700	499,500	2,406,000	10,315,200	3.8%
白山地域	38,944,800	4,092,450	0	34,852,350	10.5%
美杉地域	50,480,540	1,551,500	11,542,000	37,387,040	3.1%
合計	157,229,381	8,189,500	24,995,000	124,044,881	5.2%

※ 車両購入に係る経費及び収入は除いている

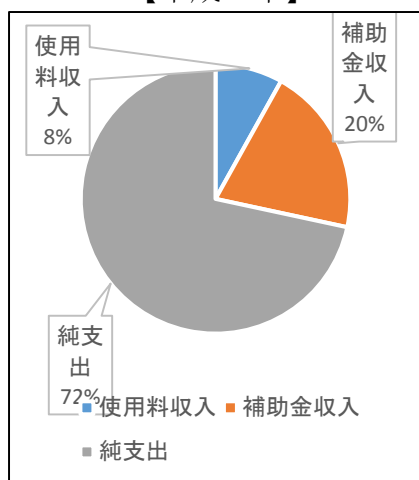
○ 平成30年度津市コミュニティバス事業費（単位：円）

	運行経費 (A)	使用料収入 (B)	補助金収入 (C)	純支出 (A-B-C)	収支率 (B/A)
久居地域	6,729,314	486,350	725,000	5,517,964	7.2%
河芸地域	6,163,195	124,800	1,366,000	4,672,395	2.0%
芸濃地域	11,373,799	240,300	2,280,000	8,853,499	2.1%
美里地域	25,445,962	294,000	5,410,000	19,741,962	1.2%
安濃地域	7,070,366	150,150	501,000	6,419,216	2.1%
一志地域	13,324,600	66,900	2,338,000	10,919,700	0.5%
白山地域	39,853,992	3,713,600	0	36,140,392	9.3%
美杉地域	51,140,203	835,300	11,692,000	38,612,903	1.6%
合計	161,101,431	5,911,400	24,312,000	130,878,031	3.7%

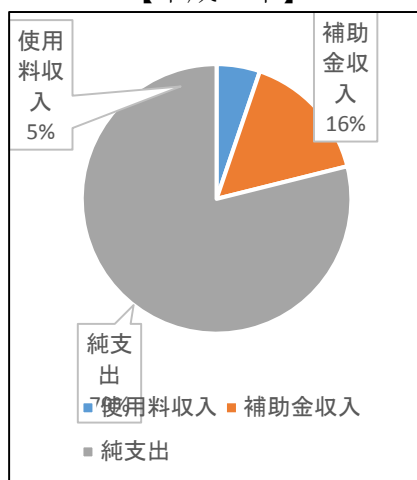
※ 車両購入に係る経費及び収入は除いている



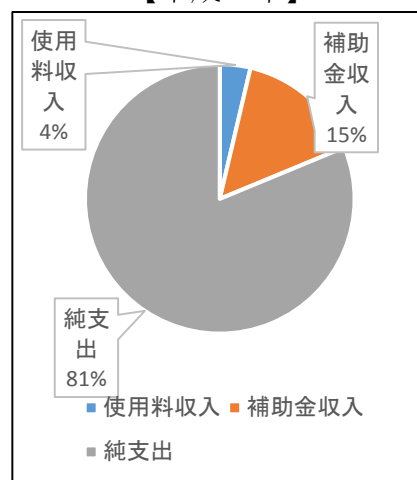
【平成28年】



【平成29年】



【平成30年】



## 2 廃止代替バス

### (1) 概要

三重交通（株）の路線バスが廃止となった路線を、津市が運行している。

運賃体系や定期券等の利用については、三重交通（株）の路線バスと全く同じ。

平成29年4月に榊原線の一部（榊原車庫前～榊原温泉口駅）を廃止代替化、平成29年10月に津新町大里線を延伸した。（津新町駅～サオリーナ前）

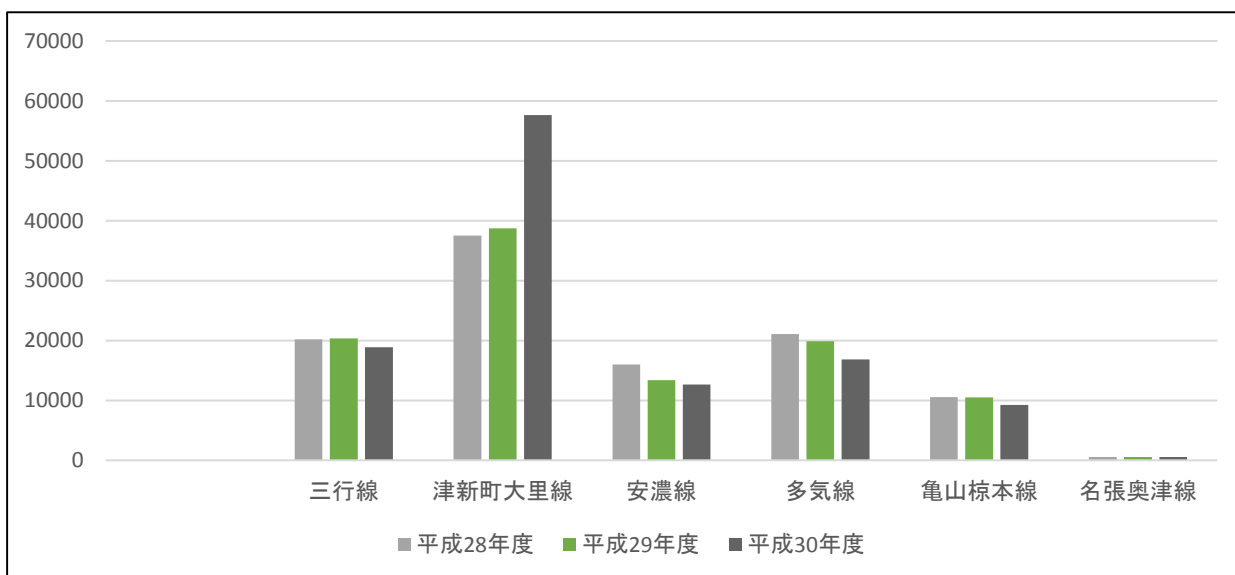
### (2) 利用状況

利用者数は減少傾向にあるが、津新町大里線においては延伸により利用者が増加した。

安濃線（立合系統）及び多気線においては利用者数の減少が著しく、2年間で20%以上減少している。

#### ○ 廃止代替バス利用者数（単位：人）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	比較 (H30/H29)	比較 (H30/H28)
三行線	20,177	20,320	18,878	92.9%	93.6%
津新町大里線	37,525	38,736	57,653	148.8%	153.6%
安濃線 (立合系統)	15,990	13,365	12,656	94.7%	79.1%
多気線	21,080	19,898	16,814	84.5%	79.8%
亀山棕本線	10,527	10,481	9,237	88.1%	87.7%
名張奥津線	544	546	539	98.7%	99.1%
榊原線	-	580	800	137.9%	-
合計	105,843	103,926	116,577	112.2%	110.1%



※ 4週間（6月、8月、11月、2月の各1週間）の乗降調査から算出した推計値

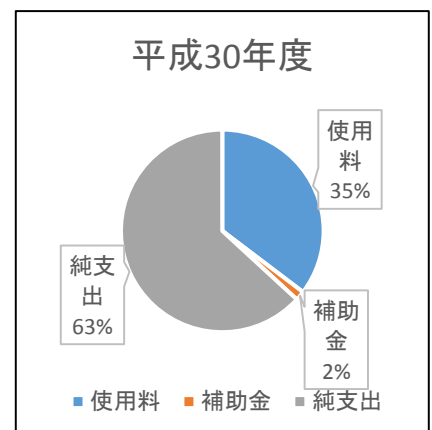
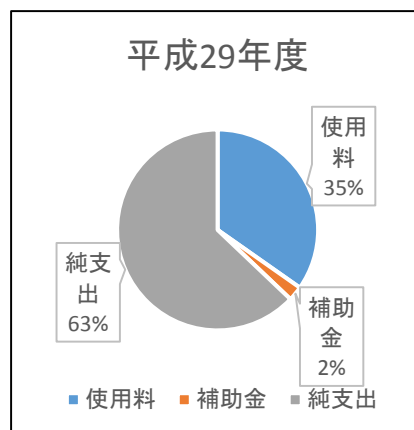
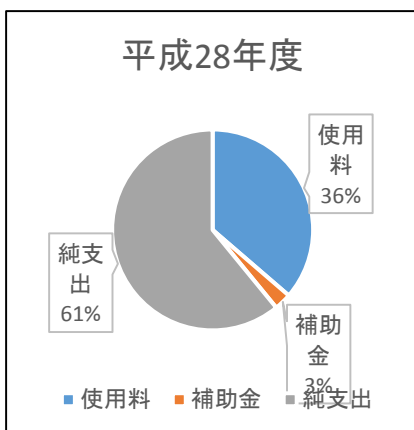
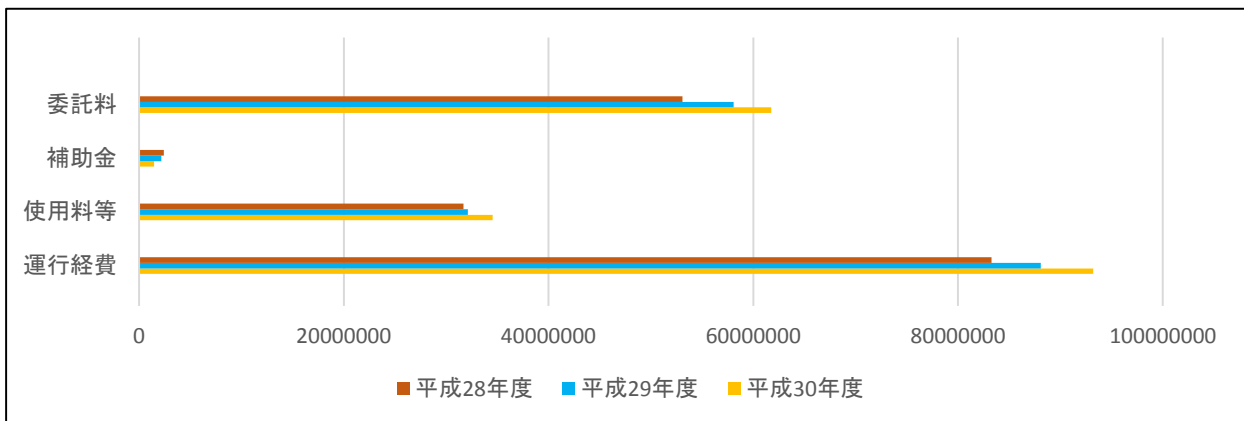
### (3) 事業費の状況

津市コミュニティバスと同様の理由により、純支出は年々増加している。  
 国の要綱改正により、名張奥津線が補助金（フィーダー）の対象外となった。

#### ○ 廃止代替バス事業費（単位：円）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	比較 (H30/H29)	比較 (H30/H28)
運行経費 (A)	83,262,500	88,093,000	93,215,000	105.8%	112.0%
使用料等※ (B)	31,694,000	32,121,500	34,542,000	107.5%	109.0%
補助金(幹線) (C)	1,487,500	1,461,500	1,482,000	101.4%	99.6%
委託料(D) =(A)-(B) -(C)+税	54,087,480	58,870,800	61,766,280	104.9%	114.2%
補助金収入 (フィーダー) (E)	926,000	719,000	0	0.0%	0.0%
純支出(F) =(D)-(E)	53,161,480	58,151,800	61,766,280	106.2%	116.2%

※ 「名張奥津線」の三重交通（株）負担金を含む



### 3 三重交通バス

#### (1) 概要

三重交通（株）が運行する民間路線バス。

#### (2) 利用状況

平成30年度は、利用者数が前年度比で約2.7%減少した。大きく減便した路線（津駅西団地循環線、神戸白塚線、泉ヶ丘片田団地線）において、利用者数の減少が顕著となっている。

#### ○ 三重交通バス利用者数（単位：人）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	比較 (H30/H29)	比較 (H30/H28)	便数 (H29▶H30)
津太陽の街線	32,100	31,000	28,600	92.3%	89.1%	平日 23 ▶ 23 休日 21 ▶ 21
辰水線 (穴倉)	40,600	38,300	37,000	96.6%	91.1%	平日 12 ▶ 12 休日 12 ▶ 12
安濃線 (市場系統)	87,900	87,600	88,100	100.6%	100.2%	平日 21 ▶ 21 休日 21 ▶ 21
長野線 (平木)	149,300	147,700	146,900	99.5%	98.4%	平日 26 ▶ 26 休日 20 ▶ 20
榑原線	297,500	264,600	255,200	96.4%	85.8%	平日 42 ▶ 42 休日 38 ▶ 38
津三雲線	87,700	91,300	98,500	107.9%	112.3%	平日 24 ▶ 23 休日 23 ▶ 23
久居高茶屋線	92,100	86,500	100,700	116.4%	109.3%	平日 33 ▶ 33 休日 22 ▶ 22
波瀬線	134,500	128,100	120,800	94.3%	89.8%	平日 20 ▶ 20 休日 18 ▶ 18
香良洲線	232,200	240,400	251,600	104.7%	108.4%	平日 38 ▶ 37 休日 30 ▶ 27
棕本線	1,044,500	994,900	1,015,300	102.1%	97.2%	平日 86 ▶ 86 休日 72 ▶ 68
殿舟団地線	81,000	80,000	78,800	98.5%	97.3%	平日 20 ▶ 19 休日 17 ▶ 17
神戸白塚線	401,900	350,100	318,000	90.8%	79.1%	平日 42 ▶ 34 休日 31 ▶ 31
城山線	414,300	403,900	381,000	94.3%	92.0%	平日 69 ▶ 59 休日 45 ▶ 43
津西ハイ タウン線	706,200	691,000	645,800	93.5%	91.4%	平日 72 ▶ 72 休日 57 ▶ 57
看護大学 夢が丘線	180,400	179,500	189,100	105.3%	104.8%	平日 44 ▶ 44 休日 36 ▶ 36
泉ヶ丘 片田団地線	284,900	283,200	259,700	91.7%	91.2%	平日 32 ▶ 32 休日 34 ▶ 34
津なぎさ まち線	67,100	79,700	82,400	103.4%	122.8%	平日 20 ▶ 20 休日 20 ▶ 20
津駅西団地 循環線	188,200	172,800	149,600	86.6%	79.5%	平日 32 ▶ 32 休日 28 ▶ 28
国立病院線	42,300	42,500	44,500	104.7%	105.2%	平日 19 ▶ 19 休日 7 ▶ 7
合計	4,564,700	4,393,100	4,291,600	97.7%	94.0%	

※推計値（三重交通(株)提供)

## 4 ぐるっと・つーバス

### (1) 概要

高齢者の通院や買い物の移動手段を確保し、外出を支援するとともに、中心市街地の活性化を目指し、平成16年4月から運行されている。

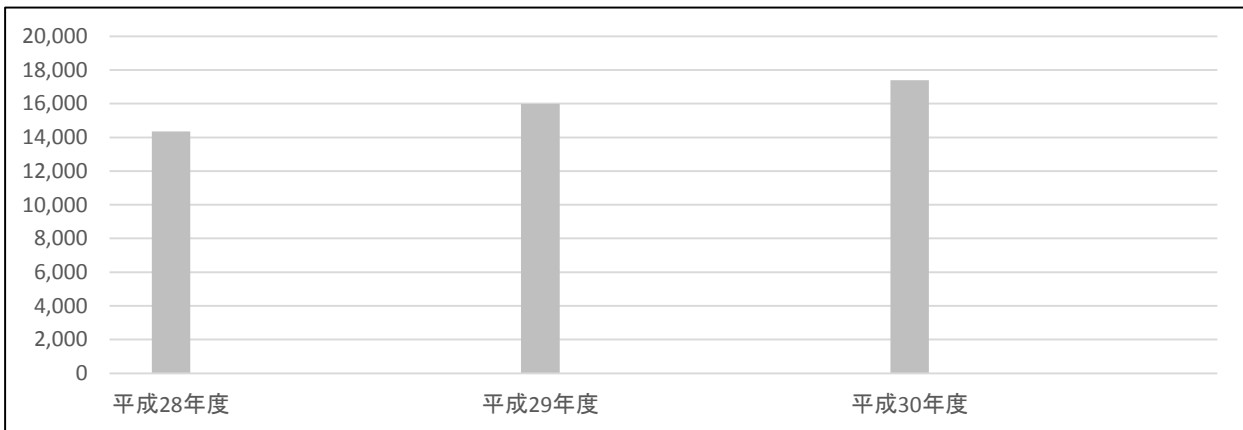
実施主体はNPOバスネット津で、津市からは補助金（年額400万）が交付されている。

### (2) 利用状況

平成28年度から平成30年度にかけて、2年連続で利用者が増加した。

#### ○ ぐるっと・つーバス利用者数（単位：人）

平成28年度	平成29年度	平成30年度	比較 (H30/H29)	比較 (H30/H28)
14,362	15,989	17,398	108.8%	121.1%



## 5 地域住民運営主体型コミュニティ交通

### (1) 概要

民間路線バスやコミュニティバスが運行されていない地域において、地域住民の移動手段を確保すべく、地域住民で組織された運営委員会によって乗合ワゴン（乗合タクシー）が運行されており、津市からは補助金（運行経費から収入を差し引いた赤字部分の4分の3相当額）が交付されている。

津地域の高松山団地においては平成25年4月から、白山地域の二俣地区及び上佐田地区においては平成28年3月から、本格運行が開始されている。

### (2) 利用状況

#### ア 高松山団地乗合ワゴン

平成28年度から平成29年度にかけては、利用者数は概ね横ばいで推移したが、平成29年度から平成30年度にかけては利用者数が減少した。かねてより乗合率の向上が課題となっている。

#### イ 二俣地区乗合タクシー

平成29年6月以降は利用が無い状況。今後の事業の継続について協議していく必要がある。

#### ウ 上佐田地区乗合タクシー

平成28年度から平成29年度にかけては、運行便数は同程度であったが、乗合率が大きく低下した。平成29年度から平成30年度にかけては、乗合率は横ばいであったが、運行便数が減少した。利用者の減少傾向が続いている。

### ○ 地域住民運営主体型コミュニティ交通の利用者数（単位：人）

	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	利用者数	1便あたり	利用者数	1便あたり	利用者数	1便あたり
高松山団地	67	1.0	69	1.0	50	1.0
二俣地区	61	1.8	9	1.8	0	0.0
上佐田地区	36	2.0	20	1.2	14	1.2
合計	164		98		64	

※（ ）内は、平成27年12月～平成28年2月の実証運行期間を含む

